



Photo / Kota Sugawara

いろんな出会いに
支えられています。

藤井ゆきよ(声優)
Fujii Yukiyo

PROFILE 専門学校を経て照明技術者に。2011年より本格的に声優として活動。主な出演作品は、劇場版アニメ「サカサマのパテマ」パテマ役、アニメ「甘城ブリリアントパーク」ラティファ・フルランザ役、アニメ「ログ・ホライズン2」でとら役、ソーシャルゲーム「アイドルマスター ミリオンライブ!」所恵美役など。

中学の演劇部に入ったところから舞台に憧れていたものの、役者になる勇気がなく照明技術の仕事に。「でも一番やりたかったことをやらないまま10年、20年って経って手が届かなくなってしまうときに、挑戦しないまま諦めるのがすごく怖くなって…、会社をやめました」

特徴的な声だったことから声優の仕事勧められた。自分が出演した作品のミュージカルショーを見に行き「子ども

たちの『がんばれ』って声援に感動して、もっともこの子どもたちが観てくれる作品に出たいな。アニメに出たいなと思って、声の仕事でやっていくと決めました」

遅いスタートだけど、役をやっていると自然と声色が変わる、現場で学びながら演じる楽しさを感じている。「今まで大変だと思ったことも役づくりに生きていて、これからも経験を重ね、家族で観られる作品に関わっていきたい」

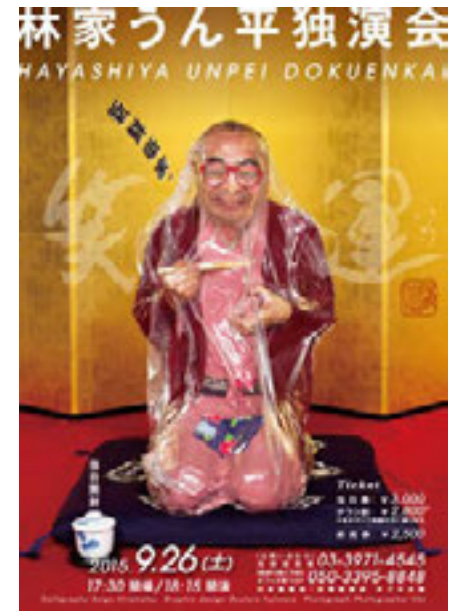
最近色々な公演のフライヤーが面白くなってきている。ここでは9月から12月に上演される、劇団・ダンス・演奏会などのフライヤーの中から、ちょっと気になるものを、本誌アートディレクターが選んでみた。



Yokohama Dance Collection
『SEPTEMBER SESSIONS』
2015年9月19日(土)・20日(日)・21日(月・祝)
横浜赤レンガ倉庫1号館3Fホール
デザイン:佐藤 寛之

世界に門戸を開いているコンテンポラリーダンス・フェスティバル「Yokohama Dance Collection」のコンペティション受賞者4名による、ダンス公演のフライヤー。4本の色面が重なり合い、その魅力を的確に伝えている。シンプルだけど、ちょっと影を付けた所など、センスの良さを感じる。

新村則人=アートディレクター。1960年生まれ。主な仕事に資生堂、無印良品、エスエス製薬、東京オリンピック招致など。JAGDA・東京ADC会員。



『林家うん平独演会』
2015年9月26日(土) / 池袋演芸場
デザイン: 藤原 龍太郎
写真: PHOTOGRAPHER HAL / 揮毫: 平松 聖悟

こんな衝撃的な落語家のフライヤーなんて、見たことない。今注目を集めているカメラマンのHALさんを起用し、うん平さんを真空パックに閉じ込めた。息ができるのだろうか?と心配したが、「新鮮な噺家」というメッセージが十分に伝わってくる。他にマジックやJAZZもあり、楽しめそうな独演会である。



毎年夏に開催される浅草サンバカーニバル。1981年に第1回が開催され、今年で34回目を迎える。約50万人が訪れる浅草サンバカーニバルでは、コンテスト形式のパレードも行われ、毎年真剣勝負が繰り広げられる。第1回から参加しているのが、地元のサンバチーム「仲見世バルバロス」だ。サンバというと、露出度の高い衣装を身につけた女性が踊るというイメージが強い。しかし、サンバでは、チーム毎のテーマを、ダンスや歌、演奏、衣装、山車の全体を通じて表現する。テーマに合わせて、山車や衣装を自分達で制作する。山車の制作には3ヶ月も要するという。楽曲もオリジナルだ。

メンバーは20代から50代までの男女と、地元浅草に限らず、関東一円から参加し、結成当時から携わっているメンバーもいる。参加したきっかけも、浅草サンバカーニバルを見て、友人に誘われてなどさまざま。 「初めて参加する人には、まずリズムに乗ること。それが楽しいと思ってもらえるよう心がけています」。リオのサンバカーニバルにも参加したことがあるトップダンサーの宮崎さんは言う。サンバのダンスには、基本のステップはあるものの、ソロのダンサーになると、アドリブがほとんどになるという。「打楽器隊に敬意と感謝の気持ちをもって踊っています。こうやって踊るのは、素晴らしい演奏

のおかげ。ダンスを通じて、みんなの情熱を引き出したい」。打楽器がメインになるのも、サンバの特徴のひとつ。打楽器が刻むリズムに合わせ、ダンサーのテンションがあがる。ダンサーの踊りに煽られ、打楽器のリズムも躍動する。この一体感が、サンバの雰囲気を作り出している。 「先日、家に帰ると、子どもから『久しぶり』と言われました」と、会長の星野さんは笑って言う。それだけメンバーと一緒に過ごす時間も長い。仕事で地方に異動になっても、参加しているメンバーもいるという。「バルバロスは家族みたいなもの」芸術監督を務める風間さんは言う。気持ちがひとつになって作り上げる楽しさが伝わってくる。